

地震別の主な被害想定

(冬18時想定)

想定地震	人的被害 (人)	建物被害 (棟)	火災焼失 (棟)	経済被害 (兆円)
都心南部直下地震	死者 2,990 重傷者 13,390	全壊 64,500 半壊 221,250	37,600	15. 1
三浦半島断層群の地震	死者 1,130 重傷者 5,400	全壊 22,710 半壊 88,170	11,980	5. 1
神奈川県西部地震	死者 880 重傷者 900	全壊 5,000 半壊 20,530	710	0. 9
東海地震	死者 820 重傷者 380	全壊 3,620 半壊 14,450	0	1. 0
南海トラフ巨大地震	死者 1,740 重傷者 530	全壊 7,360 半壊 20,110	0	1. 4
大正型関東地震	死者 31,550 重傷者 56,200	全壊 393,640 半壊 410,160	169,780	48. 9

火山災害対策（箱根山、富士山）について

箱根山のこれまでの動き

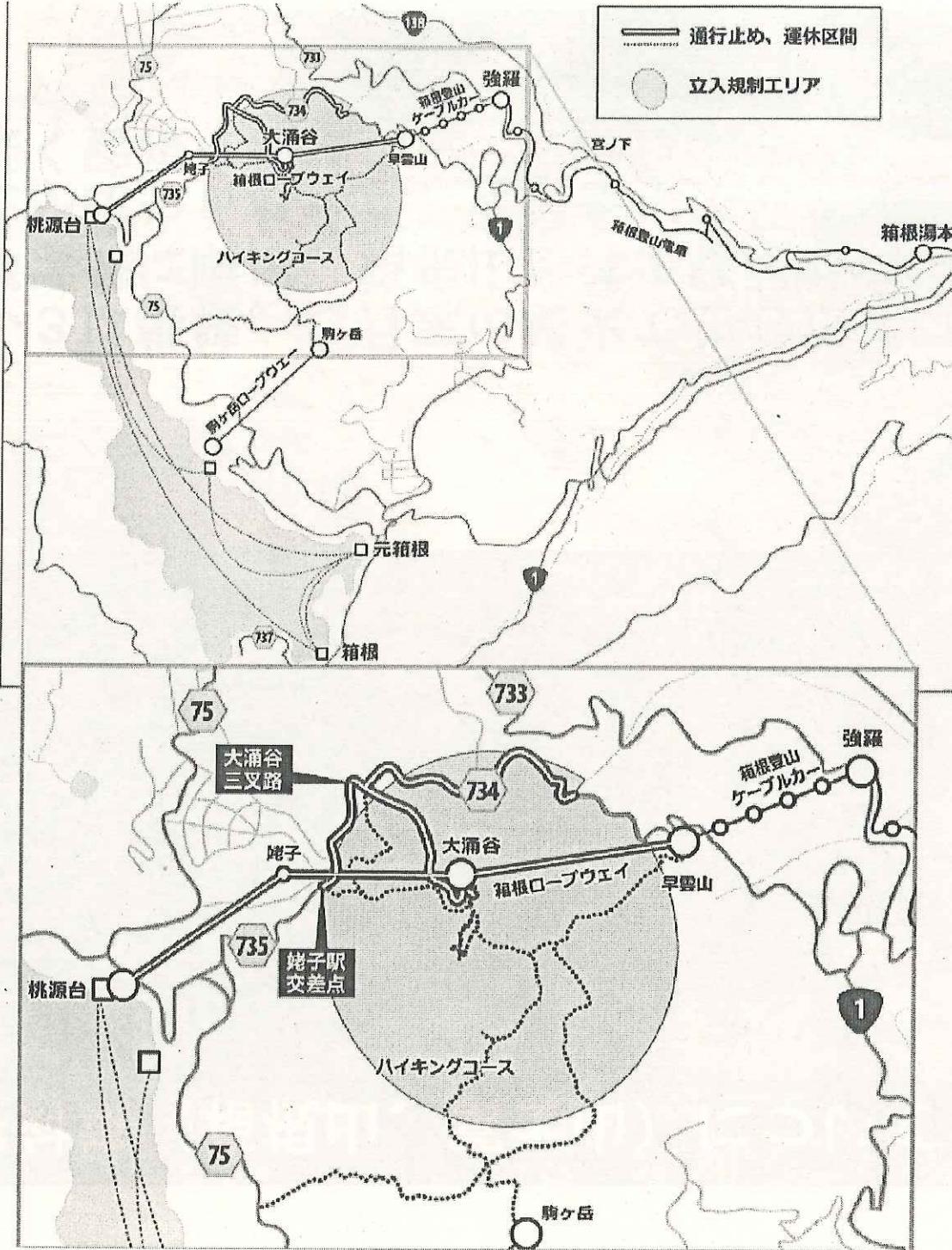
- H27. 4月末 大涌谷周辺の火山活動が活発化
地震発生数が増加
- H27. 5. 6 噴火警戒レベル2へ引き上げ
- H27. 6. 29 小規模な水蒸気噴火が発生
新たな火口と噴気孔が形成される
- H27. 6. 30 噴火警戒レベル3へ引き上げ

＜現在の状況＞

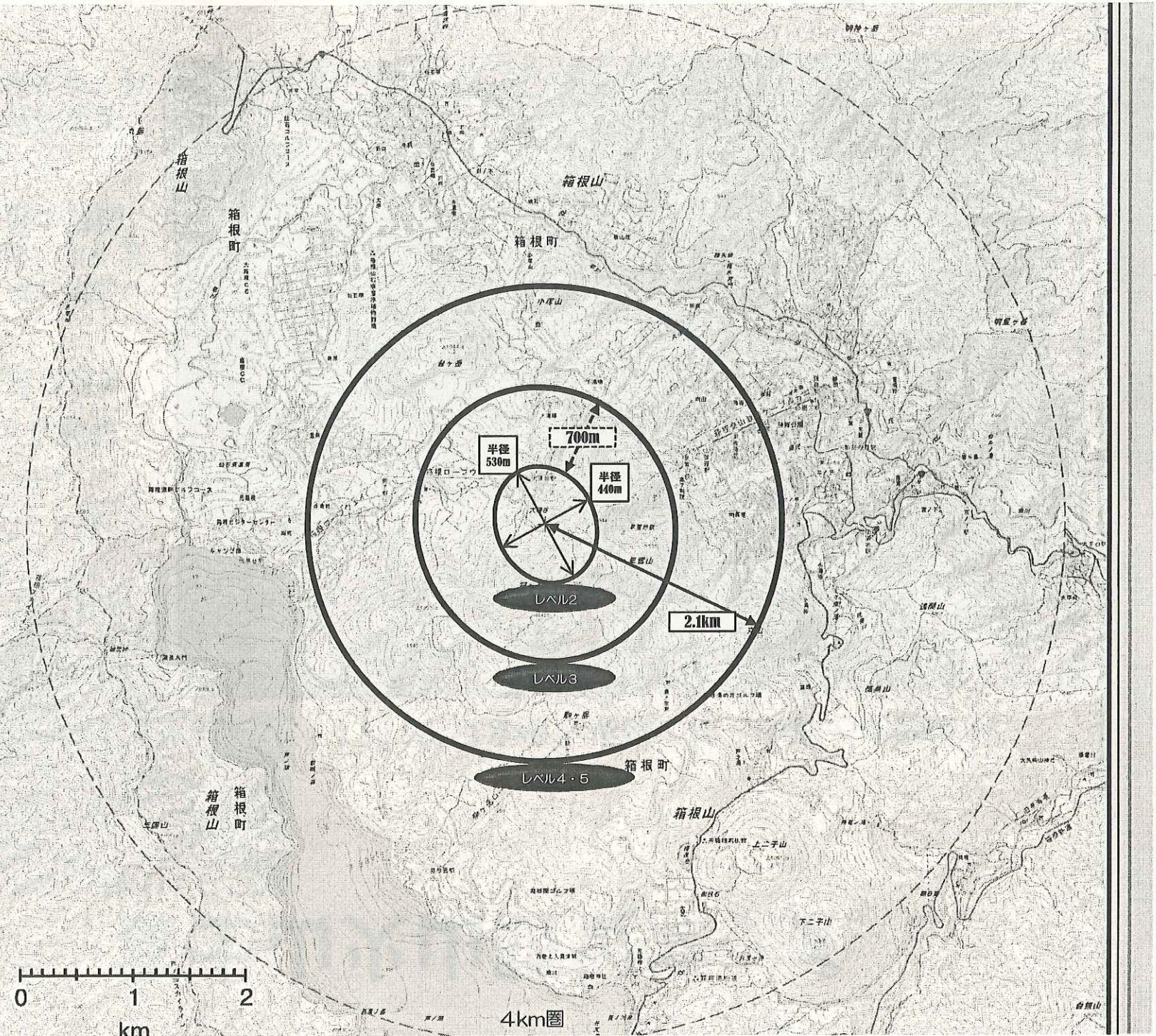
噴火警戒レベル3は継続。6月末の噴火で生じた火口や噴気孔から噴気が活発に噴出。箱根山全体の膨張傾向は、全体としては鈍化が認められるが、県温泉地学研究所では、引き続き注意深く監視を継続中

現在の規制区域

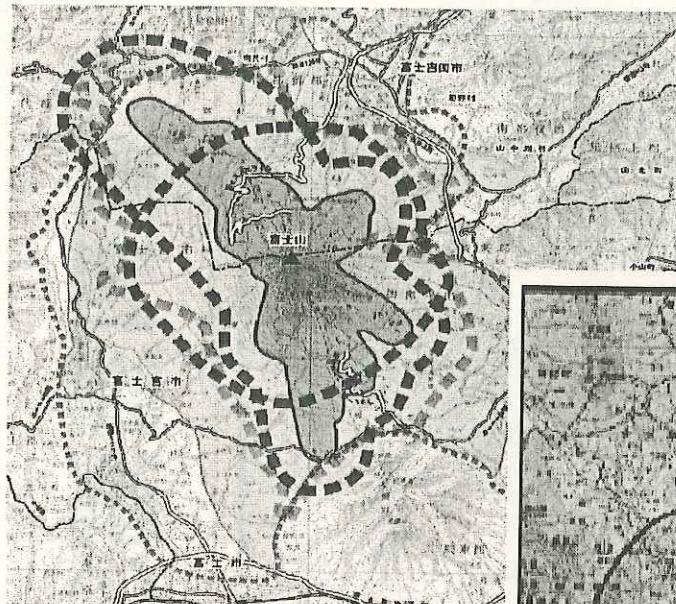
レベル3
火口周辺警報



レベル4・5の規制区域



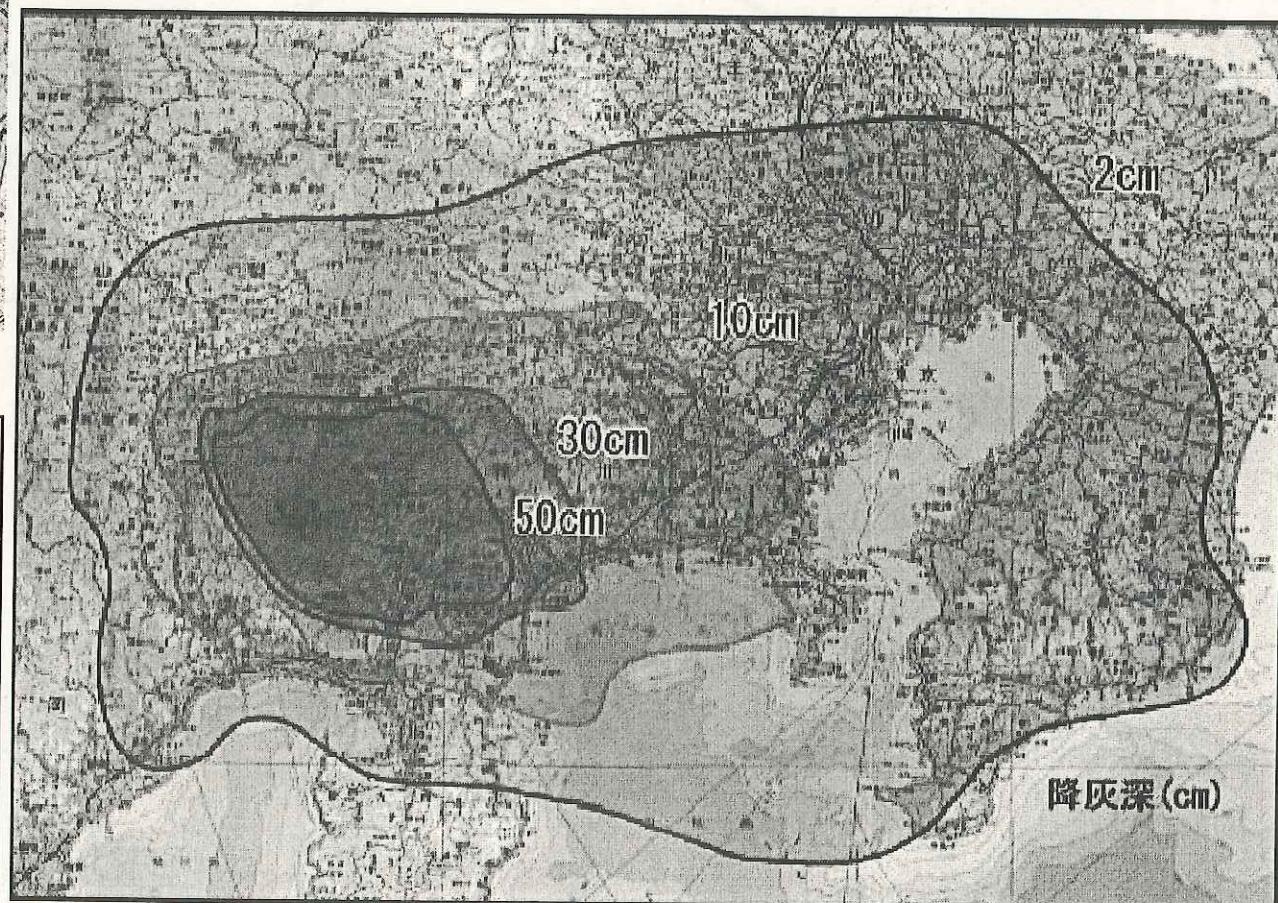
富士山火山防災マップ



火山灰による影響

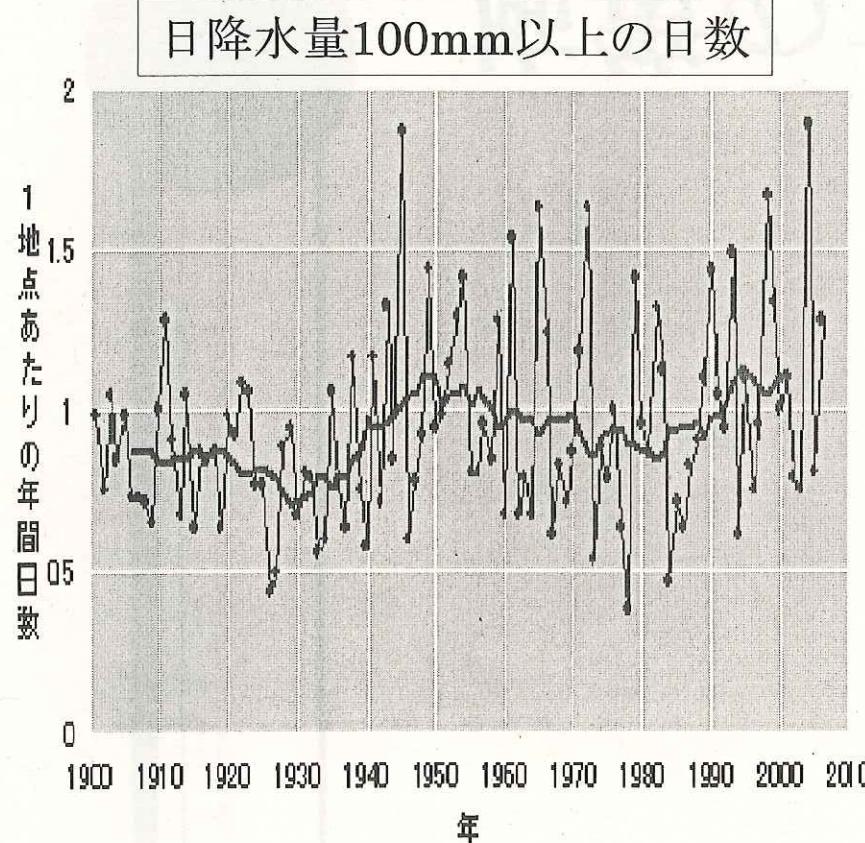
数ミリ	道路交通支障
10センチ以上	溪流に積もつた灰による土石流の可能性
30センチ以上	木造家屋の倒壊のおそれ

1707年宝永噴火規模の噴火の際の影響範囲

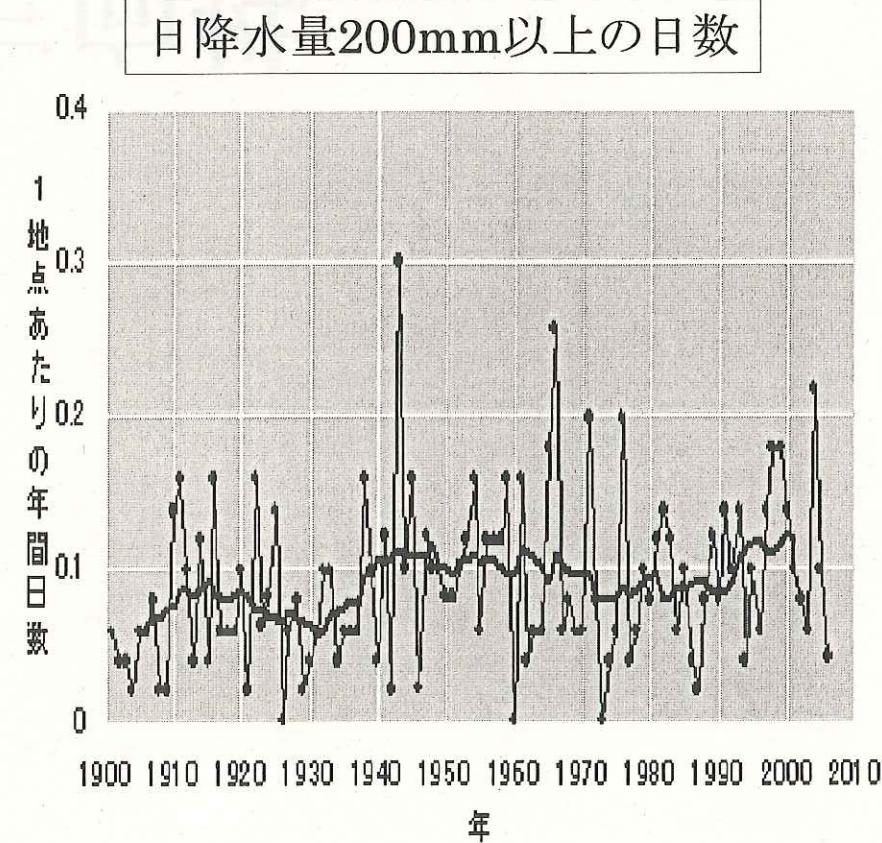


大雨の増加(気象庁気候変動監視レポート)

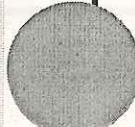
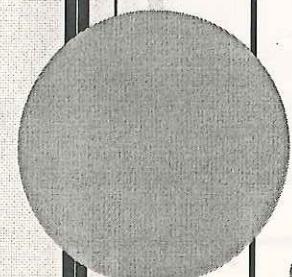
約1.2倍の出現頻度



約1.4倍の出現頻度



施策の方向性



地震・津波対策の一層の強化 豪雨・台風・火山などの自然災害対策

<地震・津波対策>

- 新たな神奈川県地震被害想定調査
(平成27年3月)



- 神奈川県地震防災戦略策定
(平成28年3月予定)
- 地震防災戦略に沿った減災対策



津波情報看板の記載内容（茅ヶ崎海岸）

<火山・豪雨・台風などの自然災害対策>

- 箱根山の監視体制強化、富士山噴火を想定した対策
- ゲリラ豪雨や台風等に備えた河川等の整備
- 治山・法面や林道の整備など

災害に備えた社会基盤の整備

災害時に重要な役割を果たす県有施設や、 県立学校等の耐震改修

<社会基盤施設>

- トンネル、橋などの安全性向上

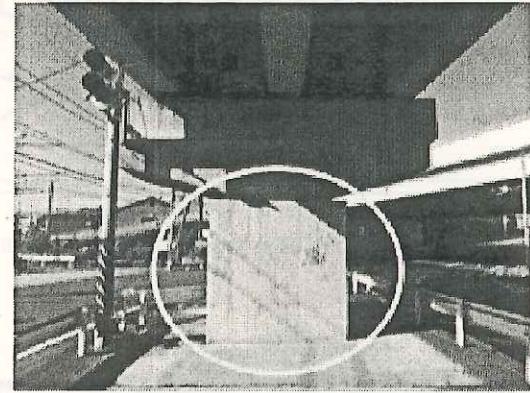


写真1 橋脚補強の事例
(橋脚をコンクリートで巻立て)

<建築物の耐震化>

- 災害時の避難所や帰宅困難者の一時滞在施設に指定している県有施設
- 県立病院や警察等
- 県立高校

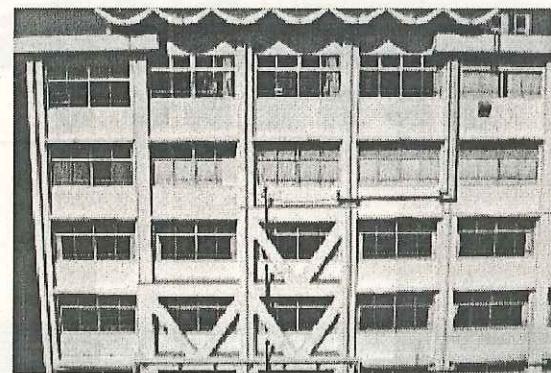
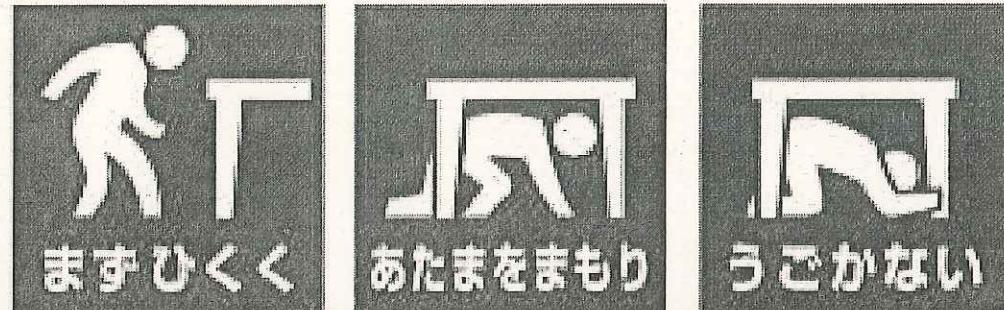
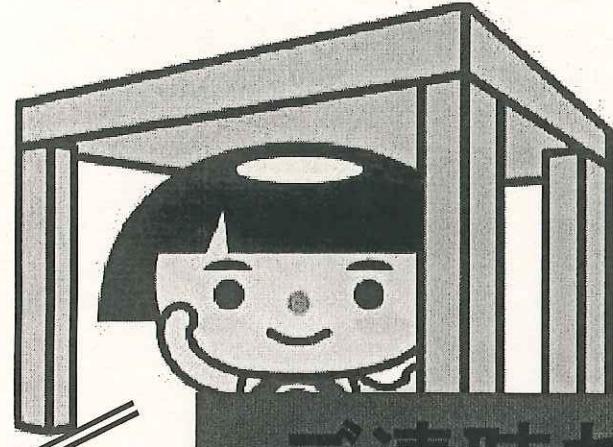


写真2 高校の耐震工事の事例
(外付け鋼板内蔵コンクリートプレース(ピタコラム)工法により補強)

最後に かながわシェイクアウト について



まずは自助が
大事だよ

9月1日防災の日
は、かながわシェイ
クアウト実行の日
でもあります。

地震災害から「いのち」を守るために
は、自らの身は自らで守る「自助」が
重要です。県では、地震発生時の安全
確保行動を県内全域で行う「かながわ
シェイクアウト」を推進しています。
皆様もぜひこちらの運動に参加、ご登
録をお願いします！